

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

令和6年4月18日に、本校第3学年を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果をまとめたものです。

I 調査の趣旨

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 国語、数学の2教科について、調査を実施します。

(イ) 出題範囲は、中学校第2学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとします。

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

(ウ) 調査問題では、上記(イ)1と2を一体的に問うこととします。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入するものとします。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施します。

(2) 学校に対する調査（学校質問紙）

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施します。

II 調査の結果（帯広市立南町中学校）

本調査の結果については、学力の特定の一部であることに留意願います。

今年度の結果

国語	: 全国平均を上回りました。
数学	: 全国平均を上回りました。

Ⅲ 調査結果の特徴

1. 「教科に関する調査」の分析と対策

(1) 国語

【結果】 平均正答率 **全国平均を上回る**

【知識及び技能】	○言葉の特徴や使い方に関する事項	全国平均を上回る
	○情報の扱い方に関する事項	全国平均を上回る
	○我が国の言語文化に関する事項	全国平均を上回る
【思考力、判断力、表現力等】	○話すこと・聞くこと	全国平均を上回る
	○書くこと	全国平均を上回る
	○読むこと	全国平均を上回る
【評価の観点】	○知識・技能	全国平均を上回る
	○思考・判断・表現	全国平均を上回る

【成果】

○**全国平均を大きく上回った**内容

- 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。
→ **知識技能においては定着をはかるため、くり返し定期的に学習を行った成果と考えられます。**
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。
→ **毎日実施している朝読書の取り組みにより、読解する力が身についてきていると考えられます。**
- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
→ **話し合い活動を通して自己の考えを整理し、文章に書き表すことで、明確化させる活動を行ってきた成果と考えられます。**
- 表現の技法について理解している。

※生徒質問紙より

- 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した。

【課題】

○**全国平均を下回った**内容

- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。

※生徒質問紙より

- 国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている。

【対策】

- 朝読書、朝学習の充実（読解力向上の取組）
- 授業改善
 - 授業の中で、課題やねらい、まとめを明確にする。
 - 授業の終末や単元のまとめにおいて、振り返りの活動をする。振り返りの際は、ねらいを絞り、ポイントを明確にして行う。
 - 対話的な学習を通して課題を解決させる。
 - 理解したことや自分の考えを、論理立てて書く指導を行う。
 - 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動を行う。
 - 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動を行う。
 - 新聞やネットニュース、多様な情報（題材）を授業で活用する。
 - 関連するものを自主的に取り上げさせ、学びの幅を広げる活動を行う。

(2) 数 学

【結 果】 平均正答率 **全国平均を上回る**

[学習指導要領の領域]	○数と式	全国平均を下回る
	○図形	全国平均を上回る
	○関数	全国平均を下回る
	○データの活用	全国平均を上回る
[評価の観点]	○知識・技能	全国平均を下回る
	○思考・判断・表現	全国平均を上回る

【成 果】

○**全国平均を大きく上回った**内容

- ・簡単な場合について、確率を求めることができる。
→ サイコロやコインを使い、実際の事象と確率について経験を伴った学習を行った成果と考えられます。

○**全国平均を上回った**内容

- ・回転移動について理解している。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。
- ・筋道を立てて考え、証明することができる。
- ・事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。
→ 図形領域全般については、習熟度別学習を展開し、きめ細かな指導を継続した成果と考えられます。

※生徒質問紙より

- ・今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、最後まで解答を解こうと努力した。

【課 題】

○**全国平均を大きく下回った**内容

- ・等式を目的に応じて変形することができる。

○**全国平均を下回った**内容

- ・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。
- ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。

※生徒質問紙より

- ・数学の勉強が好き。
- ・数学の授業の内容はよく分かる。
- ・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ・数学の授業で学習したことを、将来の生活の中で活用できないか考える。
- ・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。
- ・数学の授業で学習したことを、今後の授業で活用しようとしている。

【対 策】

- ① 習熟度別・少人数学習の工夫・充実（課題の見られる単元への集中的な指導、補充的な学習の強化、個別最適な学習の実施）
- ② 朝読書、朝学習の充実（読解力向上の取組）
- ③ 授業改善
 - ・授業の中で、課題やねらい、まとめを明確にする。
 - ・授業の終末や単元のまとめにおいて、振り返りの活動をする。振り返りの際は、ねらいを絞り、ポイントを明確にして行う。
 - ・対話的な学習を通して課題を解決させる。
 - ・普段の生活と学習内容を関連付けた授業を展開する。
 - ・焦点を絞って読み取る方法や、必要な情報を整理する方法を指導する。
 - ・数式や数学用語を使い、道筋を立て、論理的に説明する場面を意図的に設定する。
 - ・学習したことを定期的に確認する時間を授業で設定する。
 - ・思考したことを、相手に伝わりやすい記述方法を指導する。
 - ・第一学年において学習する「正負の数」「文字と式」において知識の定着を図るとともに、習熟度別授業を活用する。
 - ・より丁寧な指導、家庭学習・復習の習慣化、基礎基本の演習問題などを、個に応じた指導を行う。

2. 「質問紙調査」の分析

生徒質問紙調査

【よい傾向】

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- 携帯、スマートフォン、PCの使い方について、家の人との約束を守っている。
- 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを普段の生活に役立てている。
- 自分によいところがあると思う。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれる。
→ 本校生徒指導の重点である「寄り添う指導」の成果と考えられます。
- 将来の夢や希望を持っている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
→ 道特の時間や日々の学校生活での活動における指導の成果と考えられます。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 友達関係に満足している。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。
- 新聞を読む頻度
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
- 道特の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 授業での、PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度
- 授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる。
- 授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、画像や動画・音声等で学習内容がよくわかる。
→ 校内研修や授業改善等により授業内で効果的にICTを活用する機会が増えたと考えられます。
- 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた。

【課題】

- 授業以外でのPC・タブレットなどのICT機器の勉強のための、1日当たりの使用時間
→ 主体的な家庭学習の推進のためのICT活用について、取り組んでいきます。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
→ こころの教室相談員や保健室など、担任・副担任以外にも気軽に相談できる環境作りを継続して進めていきます。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができている。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
→ 主体的に学習に取り組む姿勢を向上させるための授業改善を校内全体で取り組んでいきます。
- 1日当たりの勉強時間（平日・休日ともに）※
→ 主体的な家庭学習の推進のためのアドバイスや取り組むきっかけづくりなど、校内全体として推進しているところです。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたい。
→ キャリア教育やおびひろ市民学を進める中で、地域に貢献する気持ちの醸成を図っていきます。